



## 「AUTOMATICA 2018」 大田区共同出展レポート

1. 展示会名称： AUTOMATICA 2018
2. 会 期： 2018年6月19日(火)～6月22日(金) … 各09:00～17:00 (4日間開催)
3. 会 場： メッセ・ミュンヘン A5ホール 516番  
ミュンヘン中央駅から地下鉄で約20分。東京ビッグサイトの約2倍の展示面積
4. 概 要： 産業のトレンドである「インダストリー4.0」や「IoT」の最重要課題である自動化装置やロボティクスをテーマとした世界最大級の展示会。大田区企業の技術を広く訴求すべく3社と共同出展した。
5. 出張者： ① (公財)大田区産業振興協会 ものづくり・イノベーション推進課  
ものづくり取引促進担当 主任 堀田 祐一  
② ハラ・インステテュート 代表 原 圭介 (当協会欧米市場開拓員)

### 6. 大田区ブース出展社 および アンケート結果

- ① (株)志村精機製作所
- ② (株)信栄テクノ
- ③ (株)TSS

商談件数	継続案件	出展効果
55	9	66点

／100点満点

## 7. AUTOMATICA 2018 概要

- 各種自動化装置、サービスロボット、工業用ロボットの世界最大級の展示会。
- 前回から来場者が7%増加し、46,000人となった。
- 全体の1/3が海外からの来場者。海外からの来場者は前回から20%増加。
- 47か国から890社が出展した。(前回より7%増加)
- 「AIに基づくデータ解析」や「インダストリー4.0」が追い風となり、たいへん活況となった。
- 「inter solar EUROPE/EES」展と同時開催 (ソーラーパネル、二次電池の展示会)
- AUTOMATICA 詳細情報 (公式ホームページ) <http://2018.automatica-munich.com/>

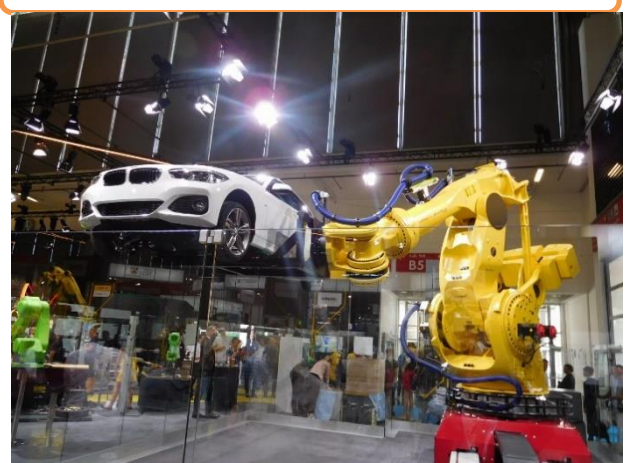
メッセ・ミュンヘン会場図



会場入り口



BMWを振り回すファナックのロボットアーム



## 8. 大田区パビリオン 写真集

大田区ブース(展示前)



大田区ブース(展示中)



商談風景(ブース内)



商談風景(通路側)



他社の出展ブースに向いて商談

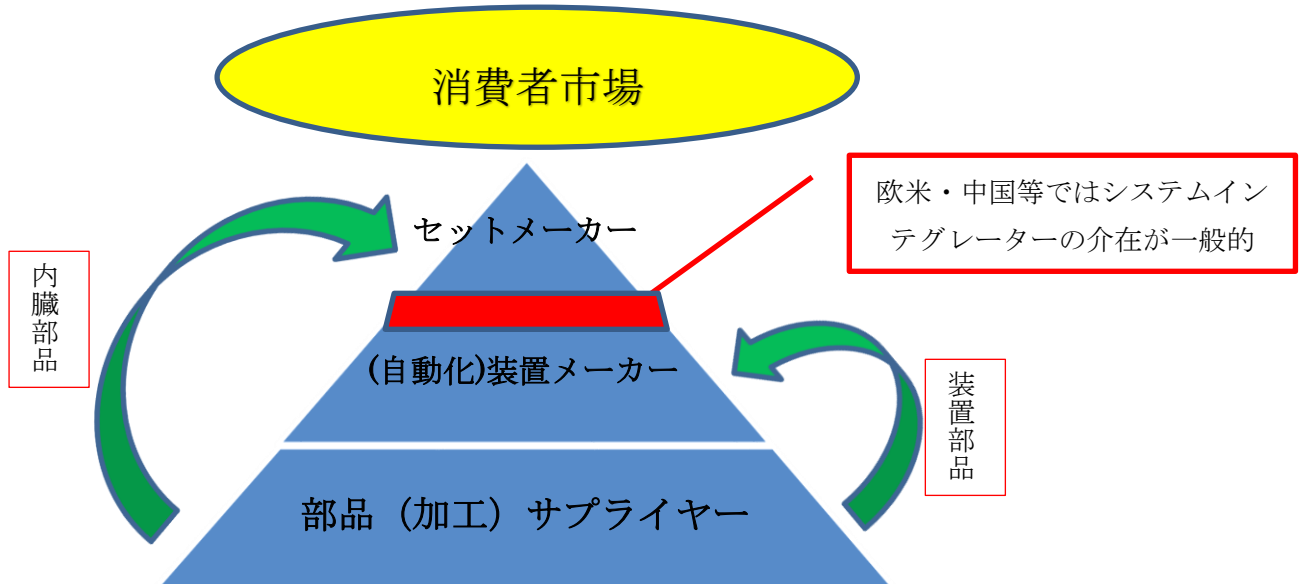


会期終了後の記念撮影



## 9. 出展目的

大田区には、開発力の高い中小の自動化装置メーカーが多く存在する。また、それら装置メーカーを支える部品加工業の裾野もたいへん厚い。日本では装置の需要家であるセットメーカー側の製造技術部門が強いため、開発した装置を1～2号機までしか販売できないことが多く、事業規模の拡大に課題を抱えている大田区企業が多い。



AUTOMATICA 出展により、欧州はもとより自動化需要を有する世界のセットメーカーへの拡販を目指した。また、並行して自社装置の高付加価値化を目指す自動化装置メーカー（競合他社）への「開発請負」、「知的財産ライセンス」、「部品供給」及び「代理店契約」などのアプローチを模索した。

## 10. 活動内容

出展した大田区企業3社合計で55商談が行われ、内、継続の可能性が高い案件が9件あった。大田区ブースでセットメーカーを中心とする見込客を待ち構えるだけでなく、出展者である自動化装置メーカーのブースを訪問し、積極的に拡販活動を行った。

出展した3社中の2社は、本見本市のテーマである自動化装置・ロボティクスの本体は製造しておらず、部品の加工業である。その点がやや心配材料であったが、加工業がほとんど出展していないことが奏功し、逆に多くの引合いを得ることができた。

前述の55商談以外にも、多くの方が大田区ブースを訪れてくれたが、一部に来場者に「なぜ立ち寄ってくれたのですか？」と尋ねたところ、「” TOKYO JAPAN “の文言が目に入り、信用できる出展者だと思った」とのコメントをいただいた。

## 1 1. 総括・所感

AUTOMATICAには今回で2回目の出展であったが、前回は上回る盛況感・規模であった。欧州・北米・中国・日本などの名立たるFAメーカーが周到的な準備の上で出展しており、ビジネスのクロージングの場として機能している。特に欧州企業の出展者は、ブースのデザインがシンプル且つ美しく、展示している装置・ロボット自体もカラフルで見た目がとても綺麗である。これに加えて、「①事前アポイントの徹底」、「②ブース内の接客姿勢（高級商談セット、軽食・ビール）」、「③実演・プレゼン（応用例の提示）」などの準備万端であり、一部費用の問題はあるが出来る限り見習いたい点である。

併催されていたソーラーパネル関連の展示会では欧州企業のほか中国企業が存在感を示していたが、日本企業はほとんど確認できなかった。一方、我々が出展したAUTOMATICAには多くの日本企業が出展しており、スマホや家電など消費財分野ではやや低迷している日本勢も、自動化機械やロボティクスの分野では世界の技術を牽引する立場を保っていることに安心感を覚えた。

もちろん、KUKA社やABB社の存在感も際立っていたが、デンソー、ヤマハ、EPSON、オムロン、三菱電機、安川電機、川崎重工、キーエンスなど日系企業が大きなブースを展開していた。中でもファナックのブースは最大規模で、東京ビッグサイトのホール1つを全部使い切っているような規模であった。ただし、日系中小企業の出展は大田区ブース以外では見当たらなかった。欧州の中小企業は積極的に出展しており、高い開発力を有する日本の中小企業が出展していないのはもったいない印象。



展示会前日には大田区ブースにて装飾等に関する不具合が多少発生したが、主催者であるメッセ・ミュンヘンが現場で対応してくれたため、迅速に修正することができた。海外見本市の委託先選定においては、見積額やデザインに加えて、現場における運営信用度がたいへん重要である。

AUTOMATICAには今回で2回目の出展となったが、前回に比べて出展者の募集に苦労した。装置関連企業は現状たいへん忙しく、多くのバックオーダーを抱えていることが一因である。

その中で、経営者自らがブースに立って出展対応いただいた今回の3社は、それぞれ交渉の入り口に立つことが出来た。ただし、言うまでもなく成約に向けては出展後のフォローこそ重要である。

各企業が海外取引を自主的に行える体制を構築できるまでの間、連携機関の協力も仰ぎながら条件交渉や貿易面などのサポートを行っていく。また、成果の見える化のため、成約内容などのヒアリングも随時行っていく予定。

以上